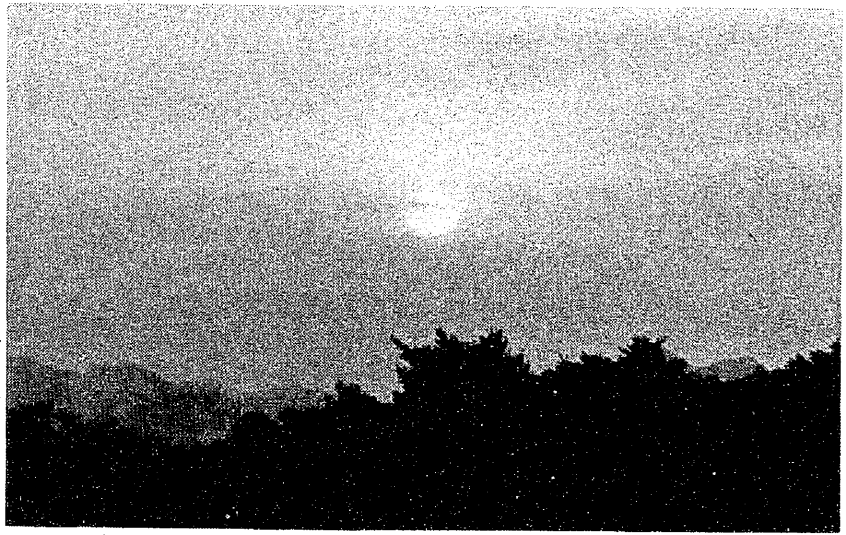


小岱山の初日の出



元旦午前7時25分ごろ、小岱山七峰台から
(早田正次さん撮影)

年金法案、参院へ 受給資格、開始年齢など改悪 保険料、将来は2~3倍

年金法案は昨年末、自民、民社両党が賛成、一部修正に公明党が賛成して衆院で可決され、一月下旬からの再開国会で参院を舞台に審議が行われます。
同法案は、現在の国民年金をサラリーマンの夫婦にも拡大し、共通の基礎年金にするというもので

年金改革のポイント

	現 行	改 革 案
資格期間	20年	25年
給付水準	加入期間32年で現役労働者の平均賃金の68%	加入期間40年、妻の基礎年金(65歳支給)を合わせて69%
支給開始年齢	60歳	65歳 ただし、当分の間60歳から支給
保 険 料	10.6% (男) 9.2% (女)	12.4% (1985年10月から) 11.4% (") さらに女子は毎年0.2%ずつ引き上げられ、1991年(昭和66年)には男子と同率。また保険料は将来、現在の2~3倍になる予定。
婦人の年金(被用者の妻)	国民年金に任意加入。任意加入しない者は年金権なし	基礎年金に強制加入
事後重症制度	初診日から5年以内の者のみ障害年金支給	初診日から65歳になるまでの間
障害年金3級の扱い	基本年金額 $\times \frac{75}{1000} \times$ 加入期間最低保障 = 月額4万6千9百円 (注) 基本年金額とは定額部分と報酬比例部分	報酬比例部分 $\times \frac{75}{1000} \times$ 加入期間最低保障 = 月額3万7千5百円
遺族年金	基本年金額 $\times 1/2 +$ 加給年金額(子供のいる場合) + 寡婦加算(子供のいる場合か、受給者が60歳以上の時支給) = 年金額 (注) 基本年金額の加入月数が240カ月未満の場合は、すべて240カ月として計算。基本年金額の最低保障56万2千800円。基本年金とは定額部分と報酬比例部分。	(子供のある妻) 基礎年金 + (遺族厚生年金 $\times 3/4$) + 加給年金 (子供のいない妻) (遺族厚生年金 $\times 3/4$) + 加算金(月額3万7千5百円) = 年金額 (注) 加算金は40歳から支給。ただし夫と死別した時に35歳以上であること。被保険者期間が300月に満たないときは300月とする。遺族厚生年金とは報酬比例部分を指します。
60歳から64歳の間に支給される夫(被用者本人)の年金水準	32年加入 夫の年金 + 妻の加給年金(1万5千円) = 現役労働者の平均賃金の68%	40年加入 夫の年金 + 妻の加給年金(2万5千円) = 現役労働者の平均賃金の59%
女子の支給開始年齢	55歳	15年の経過措置をもうけ60歳支給に

三池炭鉱の歴史の中から

あとがきにかえて(二)

十五分会 武松輝男

前号で、わたしたちの日常の生活の繰り返しのなかで、かつて坑夫たちが、地獄と恐れられた坑内での労働に不平不満を言わないう、その境遇をめぐり、さういふ不遇な生活を悟らせる智恵社の教義というものを受け入れる素地があったのだと書いた。そして、このころに地獄極楽について語った。

それは、人間の弱さ(こころの弱さ)が、労働組合に組織されて、ちよっと見ると強そうに見える労働者にも、その別の面の弱さを

こころの弱さがあるものだ、こころの弱さではないか。この情緒というものは増幅しやすい。増幅はまわりの状況で、自分と変わるものである。社はそのわずかな隙に揺れ動く。心情を巧みにとらえている。こころはどうか。かつて、倶利伽羅絞絞・喧嘩の強さに人情味もろく、弱さ(こころの弱さ)が、いまはストライキ・闘争などの強さ(こころの強さ)で目立っている。弱さ(こころの弱さ)は見えなくなっている。しかし、弱さ(こころの弱さ)はあつた。科学の谷間にあつて、こころの情緒でも言える。

三池炭組が昭和二十九年の百十

三日のたかひで勝って、差別と処分とかがほとんどなくなつて労働者の要求の大半が満たされてきた。その不条理はほとんど現われてきていなかったと思つてゐる。しかしこの状況が昭和十五年の三池闘争のあと逆転するが、そのなると労働条件や福利条件といったものが生産計画にそつて合理的に計画され、そして計算されて差別と処分を軸に展開される。つまり人間にまつわる情緒性をすべてかたがへり捨てて機械的な合理性だけが追求されるのである。そこでは、不条理は労働者の中にとりこまれて隠れてしまつてゐる。

災害を起してはじめてわかつたのかも知れないが、三池炭鉱は情緒的合理性を引き出そうと計画した。それがいま三池炭鉱をなす。三池炭鉱で災害があつた。例えば、三池炭鉱で災害があつた。例えば、三池炭鉱で災害があつた。

災害を起してはじめてわかつたのかも知れないが、三池炭鉱は情緒的合理性を引き出そうと計画した。それがいま三池炭鉱をなす。三池炭鉱で災害があつた。例えば、三池炭鉱で災害があつた。

この書は、元三池炭組書記長の灰原茂雄氏の指導・援助のもとに毎月一回、三年におよぶ社員同士の学習会(三池のたかひ)を整理されたものです。

『三池を語る』を推せんします
この書は、元三池炭組書記長の灰原茂雄氏の指導・援助のもとに毎月一回、三年におよぶ社員同士の学習会(三池のたかひ)を整理されたものです。

『三池を語る』は、灰原茂雄編著、発行は『三池を語る』刊行委員会一九八三年三月刊、定価千八百円。取り扱いは、大牟田市小浜町五四の一の五五、宮崎勝



昭和三十八年の三池炭鉱じん大爆発は、このような機械的な合理性が生んだ最大の惨事だと思つてゐる。

『三池を語る』は、灰原茂雄編著、発行は『三池を語る』刊行委員会一九八三年三月刊、定価千八百円。取り扱いは、大牟田市小浜町五四の一の五五、宮崎勝